

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	岡山大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	アジア環境再生の人材養成プログラム (循環型社会形成学と持続発展教育(ESD)の融合)		
主たる研究科・専攻名	環境学研究科資源循環学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 阿部 宏史		

[教育プログラムの概要]

1. プログラムの目的

アジアの発展途上国では、これまでの急速な経済発展に伴って廃棄物発生量が増大しており、廃棄物処理の問題がさらに重篤化することは明らかである。また、資源枯渇や地球温暖化などの地球環境問題は、発展途上国においても対処すべき喫緊の課題となっている。我が国は、これらの問題の突破口として、循環型社会の構築を提案してきた。そして、この循環型社会をアジア諸国に浸透させるためには、循環型技術の普及だけでは不可能であり、その国の社会や文化に根ざした環境意識を良く理解し、地域に適した循環型社会を設計することが重要である。そこで本プログラムでは、選抜した大学院生に対して、①持続発展教育(ESD)を通して現代物質社会への問題意識や解決意識を高め、②循環型社会に関連した技術論・計画論・政策論を体系的に学ばせ、さらに③実践面では、プロジェクト実習を通して地域循環から国際循環へと段階的に循環型社会のイメージを膨らませることによって、「アジアの環境再生に向けて国際的にリーダーシップを発揮できる人材」を養成することを目的とする。

2. プログラムの背景

岡山大学では、平成15年度に21世紀COEプログラム「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」が採択され、大学院環境学研究科において、廃棄物マネジメントに関連する学問分野を体系化した「循環型社会形成学」の構築を行うとともに、研究人材の養成を行ってきた。また、平成17年度には「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「『いのち』をまもる環境学教育」が採択され、海外フィールド演習、国連機関インターンシップ等の導入を通じて、国際機関等で活躍できる環境専門家の養成プログラムを構築した。さらに、平成19年度には、文部科学省・特別教育研究経費(連携融合事業)として「地域発進型による国際環境専門家の育成プログラム—ユネスコチェアを活用したESDの国際拠点形成プログラム—」が採択され、平成19年4月にユネスコから認可を受けた「持続発展教育(ESD)のための岡山大学ユネスコチェア」を基盤として、ESD実践事業を進めている。本プログラムでは、大学院環境学研究科がこれまでに培ってきた教育基盤を生かして、「循環型社会形成学」と「持続発展教育(ESD)」を融合させ、アジア諸国における循環型社会の形成期に中心となって活躍できる人材を養成するプログラムを構築する。

3. プログラムの概要

循環型社会形成に貢献する環境人材の養成においては、資源・エネルギー循環や廃棄物マネジメントに関する専門知識や技術の修得に加えて、環境と社会の関係を学際的かつグローバルな視点から把握し、経済社会を変革していく実践的能力の涵養が必要である。環境学研究科では、文理医融合による学際的カリキュラムを構築しているが、さらに持続発展教育(ESD)の視点と学内・地域・国際各レベルにおけるプロジェクト実習を付加し、経済社会変革を担う実践的能力を養成する。このために、研究科カリキュラムに「アジア環境再生コース」を新設する。博士前期課程の本コース定員は、研究科全体の入学定員の約10%に当たる10名程度、後期課程は約15%の3名程度とし、前期課程は既存コース入学後に選抜する。

博士前期課程：資源循環学専攻のカリキュラムを、「経済・社会、技術、物質・資源」及び「問題把握、循環分析、循環技術、循環計画、循環政策」の体系を考慮した循環型社会形成の視点から再構成する。また、循環型社会形成に関する高度な知識と技術に加えて、経済社会変革の実践力を有する人材を養成するため、「ESD実践論」及び「学内・地域・国際プロジェクト実習」を新規に導入する。

博士後期課程：「社会と環境」、「物質と環境」、「都市と農村」を主要テーマ、また「持続可能社会マネジメント学」をコア科目として、円環構造の平行な繋がりを持つカリキュラムを構成する。さらに、高度なESD実践能力を有し、国際的に活躍する高度な環境人材を養成するために、全科目において英語による講義を行うとともに、「アジア途上国フィールド実習」及び「国際機関インターンシップ」を開講する。

学生指導とキャリアサポート：環境学研究科では、全学生に対して正副指導教員による年2回のアカデミックカウンセリングを義務づけている。本プログラムでは、平成20年度に全学で導入予定の電子指導カード、及び既存のe-Learningシステム、遠隔会議システム等を活用した双方向の学習・指導システムを構築する。また、学生奨励研究費、環境科学技術シンポジウム、英文ジャーナル(JESSS)発行、国際公務員セミナー等の既存制度を強化し、博士後期課程学生の研究指導とキャリアサポート体制を充実する。

教育支援組織：本プログラムの実施に当たっては、岡山大学ユネスコチェア、廃棄物マネジメント研究センター、環境管理センターが、実習やインターンシップにおける教育支援を行う。

岡山大学：アジア環境再生の人材養成プログラム

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

アジア環境再生の人材養成プログラム

（循環型社会形成学と持続発展教育（ESD）の融合）

21世紀COEプログラム
循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント

岡山大学ユネスコチェア
持続発展教育(ESD)の実践事業

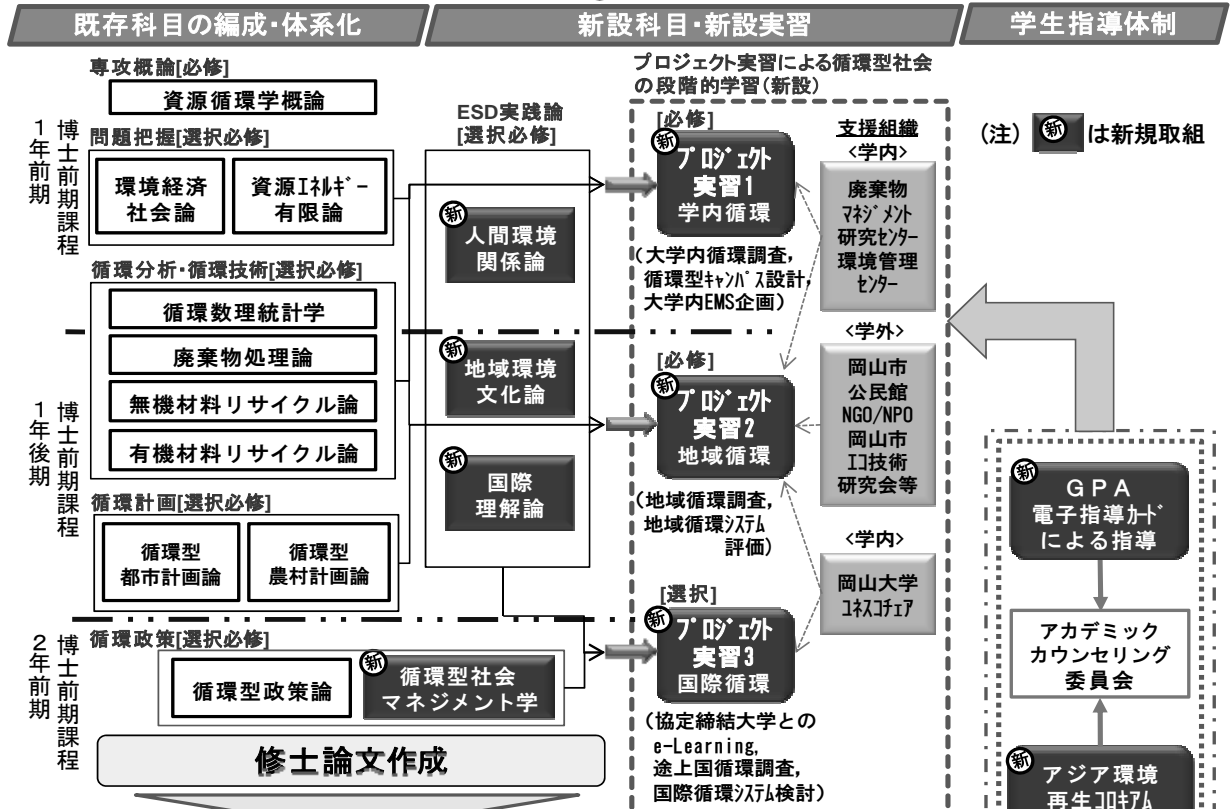
大学院教育
への活用

獲得させる素養

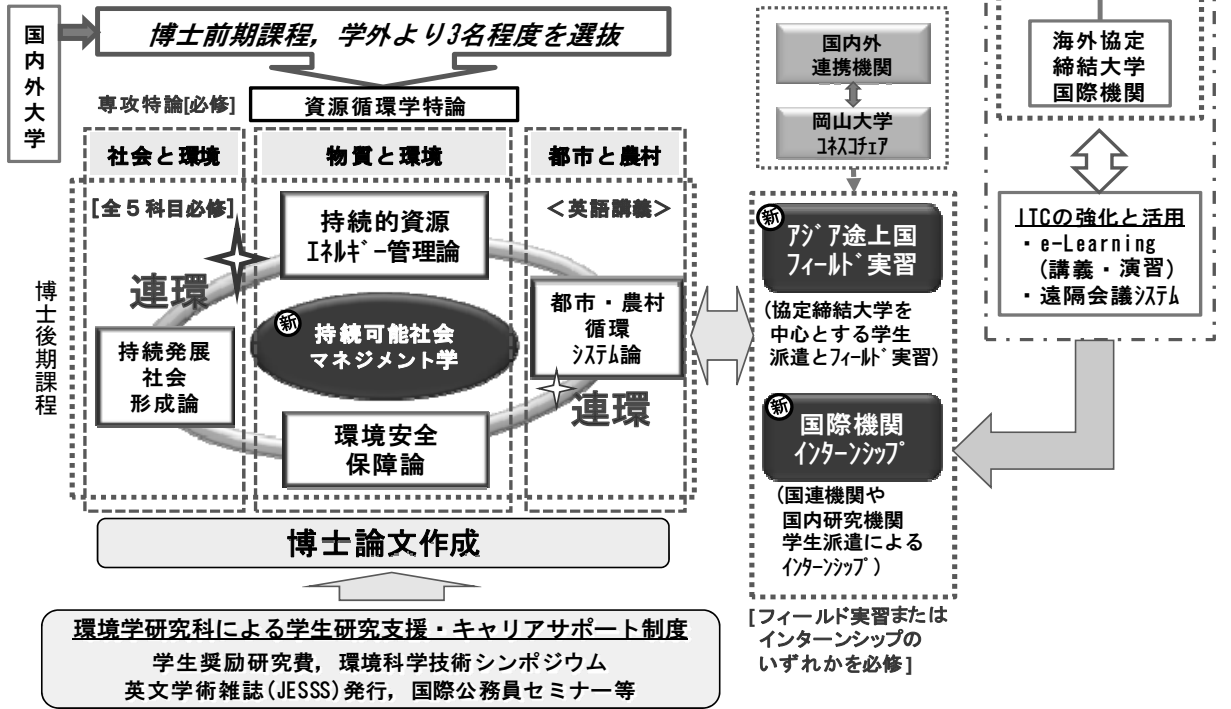
- ・循環型社会形成に関する高度な専門知識と技術
- ・経済社会の変革を牽引するESD実践能力

博士前期課程

既存コースから10名程度を選抜



博士後期課程



<採択理由>

大学院教育の実質化の面で、アカデミックカウンセリング、GPA導入などの成績評価体制やキャリアサポート体制の整備など、積極的な取組がなされている点は評価できる。

教育プログラムについては、「持続発展教育（ESD）」に着目し、社会から強く求められているアジア環境再生に関わる人材の養成を目指して、これまでの優れた大学院教育の成果を背景とした緻密な計画が練られており、高い実現性、実効性が期待される。本教育プログラムの実施を通じて、国際的な人材育成の高度化やキャリアパスに関して改善を図ることにより、大学院教育の実質化のための大きな成果が期待できる。